

複合動詞「重 V」の意味と形成
—「改 V」との相違を参考に—
大阪大学言語文化研究科 王蓓淳

1. はじめに

複合動詞「重 V」は後項動詞が表わす行為のやり直しを表わしており、後項にくる動詞のバリエーションが豊富で生産性が非常に高い。しかし、すべての「重 V」が同じ意味概念を持つとは限らない。(2a)と(2b)いずれも事象の繰り返しを表わすものの、「重」が表わす事象反復の作用域が異なる。

- (1) a. **重返** 家園。 (再び家に戻った)
b. 他把這本書 **重放** 到了書架上。 (彼はこの本を本棚に置き直した)
c. 我 **重彈** 了這首曲子。 (私はこの曲を弾き直した)
d. 選手們 **重跑** 了一次。 (選手たちはもう一度走り直した)
- (2) a. 我 **重唸** 了這段課文。 (私はこの段落を読み直した)
b. 才回家不到三天,他就又 **重回** 了戰場。 (再び戦場に戻った)

また、「改 V」と交替可能な「重 V」がある。この場合の「重 V」は“変更”の意味解釈も含意されていると思われる。

- (3) a. 明年政府要 **{重選/改選}** 委員會成員。 (来年政府は委員会のメンバーを選び直す/改選する)
b. 他 **{重編/改編}** 了貝多芬的交響樂。 (彼はベートーベンの交響曲を編集し直した/改編した)

本発表は影山(1993)のモジュール形態論の仮定に基づき、複合動詞「重 V」を語彙レベルで形成される複合動詞と主張する。「重」が表わす反復(以下は AGAIN)の作用域が後項動詞のアスペクト素性によって異なっており、本発表は「重 V」の概念構造に二つの合成パターンを提案し、それぞれの概念構造と結合可能な動詞の範囲を示す。本発表の第一の目的は、「重 V」の概念構造を明示するとともに、「重 V」の作用域を明確にすることである。また、「重 V」の概念構造をより明確にするため、「改 V」との比較を行い、両者はなぜ交替可能性が生じるのかを示すことを本発表の第二の目的とする。

2. 先行研究

複合動詞「重 V」と同様に、結合する動詞が表わす行為の繰り返しを表わすものとして、英語では“re-”、日本語では「V直す」がある。2節でまず、由本(1997, 2005a, 2005b)を取り上げ、re-と「V直す」の性質を概観しておきたい。

- (4) a. Mary **reopen** the door.
b. John **reswam** the Channel.
- (5) a. 花子はこのドアを **開き直した**。
b. 太郎は海峡を **泳ぎ直した**。

2.1 re の概念構造

由本(1997, 2005a)は re-を語彙レベルで付加されるものと考え、re-の作用域を次の二つの LCS で表わしている。

LCS①[x] CAUSE [y BECOME **AGAIN** [y BE [AT-PAINTED]]]

(John **repainted** the house.)

LCS② [**AGAIN** [LCS1]]

(John **reswam** the Channel.)

“達成”が含まれる動詞に限って re-との結合が許される。状態動詞と活動動詞は delimited event を表わさないので、re-とは結びつかないと由本(1997, 2005a)は述べている。

- (6) a. *re-belong, *re-know (由本 2005:43)
b. *resleep, *retravel (ibid. 43)

由本(1997, 2005a)によれば、“達成”が含まれる動詞のうち、基体動詞のAspectによって、re-の作用域が異なる。結果事象が含意される動詞と結合する場合、LCS①に表わされるように、re-によって表わされる反復が結果状態にのみ及ぶと由本(2005a)は述べている。

- (7) a. John **repainted** the house. (ジョンはこの家を塗り直した) (由本 2005a:41)
b. [x] CAUSE [BECOME **AGAIN** [[HOUSE] BE [AT[PAINTED]]]]
- (8) a. Bob decides to **rejoin** the human race. (ボブは再び人間に仲間入りしようと決心した) (ibid.:38)
b. [x] CAUSE [BECOME **AGAIN** [[BOB] BE [IN [HUMAN RACE]]]]
- (9) a. They **reproduced** natural colors on the screen.
(彼らは自然の色をスクリーンに再現した) (ibid.:286)
b. [x] CAUSE [BECOME **AGAIN** [[NATURAL COLORS] BE [ON [SCREEN]]]]

また、経路を目的語にとることによって、移動様態動詞が表わす事象全体に有界性が与えられ、re-と結び付くことが容認するようになると由本(1997, 2005a)は述べている。LCS②に示されるように、この場合は re-によって表わされる反復が事象全体に及ぶ。

- (10) a. *John **reswam**.
b. John **reswam** the Channel. (ジョンが再び海峡を泳いだ) (由本 2005a:36-38)
c. **AGAIN** [[x SWIM [_{PATH} ACROSS [CHANNEL]]]] (ibid.:38)

2.2 「V直す」の概念構造

由本(2005a, b)、王・由本(2009)の分析によれば、「V直す」は統語部門で派生され、「V直す」の概念構造は次の三つの合成パターンがある。

「V+直す」の LCS①: V1 が表わす事象の反復

[x CONTROL [**AGAIN** [LCS1]]]

(走り直す、橋を渡り直す、飲み直す)

LCS② : V1 が表わす事象の反復による修正

$$\left[\begin{array}{l} x \text{ CAUSE } [y \text{ BECOME } [y \text{ BE}[\text{AT-RIGHT}]]] \\ \text{BY } [x \text{ CONTROL } [\text{AGAIN} [\text{LCS1}]]] \end{array} \right]$$

(スープを温め直す、論文を書き直す、計画を練り直す)

LCS③ : V1 が表わす事象の反復による状態変化使役

$$\left[\begin{array}{l} x \text{ CAUSE } [y \text{ BECOME } [y \text{ BE } [\text{AT-z}]]] \\ \text{BY } [x \text{ CONTROL } [\text{AGAIN} [\text{LCS1}]]] \end{array} \right]$$

(古い町屋を喫茶店に建て直す、英文を和文に書き直す)

「V 直す」において、前項動詞(以下は V1)の LCS に関して特に制約を課すことはなく、活動動詞と状態動詞は「V 直す」の V1 に選択することが可能であると由本(2005a:348)は述べている。

(11)a. 彼は **走り直した**。

b. 定年後の「田舎生活」の落とし穴 1/23 の朝日新聞くらし欄で、北海道・駒ヶ岳山麓の別荘地の話が取り上げられていた。この別荘地にはすでに約 300 人の定住者が居るが、中には夢破れて都会に **住み直す** 老夫婦が出ていると… (由本 2005a:292)

また、「V 直す」において、以前の状態が不満足であるために、より良い結果を求めてその行為を繰り返すという意味が含意されているので、LCS②を想定することが可能と王・由本(2009)は述べている。

(12)a. スープを **温め直す**。

(王・由本 2009:244)

b. 古くなった武家家屋を **建て直して**保存する。

(由本 2005b:122)

c. 人形を二段目の棚に **置き直しなさい**。

(由本 2005b:122)

さらに、LCS③は特定の語彙についてのみレキシコンで与えられているものだと由本(2005a:278-298)は分析している。V1 が作成動詞の場合は、「直す」によって新たな事象構造が作り出される。

(13)a. 古い町屋を喫茶店に **建て直す**。

b. 英文を和文に **書き直す**。

2.3 相違点

由本(1997, 2005a, 2005b)の分析によると、re-と「V 直す」の相違点は大きく次の2点にまとめられる。

① re- は語彙レベルでの語形成であるが、「V 直す」は統語部門での複合である。

② re-は事象全体の反復の意味が保証されないが、「V 直す」は常に V1 が表わす事象全体が反復されることを表わす。

③

2.3.1 語形成レベル

re-は語彙部門に属する接辞付加と考える根拠として、由本(2005:35-57)は派生語の下位範疇化素性の変更を挙げている。一方、「V 直す」は統語的複合動詞と由本(2005a, 2005b)は分析している。その根拠として、「V 直す」

は受動形や使役形と結合できることなどが挙げられている。

(14) a. Mary appeared. → Mary reappeared (*the umbrella). (由本(2005a:48)

b. John awoke. → John reawoke (*the gerbils).

c. Alex escaoed. → Alex reescaped (*Timothy).

(15) a. 完成しかかったパズルは一度崩れ、正しい形へと **組み立てられ直す**。 (由本 2005a:278)

b. あらかじめふられているとも言える妻に、60年かけてきっちり **ふられ直す** ため、恋をしている男。

(ibid.:278)

c. デパートに注文した洋服が届いたが、気に入らない。仕方がないから、出入りのテーラーに **作らせ直そう**。

(ibid.:278)

2.3.2 AGAIN の作用域

由本(2005a:344-351)によると、re-の作用域は基体動詞が表わす事象全体ではなく、結果状態を表わす下位事象のみが re-の作用域に入る。一方、「V直す」では、結果を表わす下位事象にのみ AGAIN が及ぶという解釈は容認されない。「V直す」において、V1 が表わす事象全体が反復されなければならない。

(16) a. **reproduce** natural colors on the screen. (由本 2005a.:286)

(彼らは自然の色をスクリーンに再現した)

b. *自然の色を{作り直す/現わし直す} (ibid.:286)

(17) a. Japan **re-exported** the goods that the merchants brought back from China. (ibid.:287)

(アジアからの輸入品を再輸出している)

b. * アジアから輸入したものを **輸出し直している**。 (ibid.:287)

3. 「重V」の位置づけ

「重」は「再」や「又」と同様に、副詞的修飾機能を担うと一般に分析されている。しかし、「重V」は「再」、「又」と異なる性質を持つ。3節では、「重V」を複合動詞と捉えるべき証拠を示す。

(18) a. 我要把这篇论文 {重讀/再讀} 一次。(私はこの論文を読み直す/再び読む)

b. 她把这篇论文 {重讀/又讀} 了一次。(彼女はこの論文を読み直した/再び読んだ)

(19) a. 他的作業寫得太潦草，老師讓他 {重寫/再寫} 一次。

(彼の宿題は汚かったので、先生は彼に{書き直させる/再び書かせる})

b. 把這個練習曲 {重彈/再彈} 一遍。(この練習曲を{弾き直して/再び弾いて})

3.1 語彙的緊密性

(20) a. *把這一句 **重** 大聲地 唸一次。(この文を大きな声で読み直して)

b. 把這一句 **再** 大聲地 唸一次。(この文を再び大きな声で読んで)

(21) a. *她 **重** 狠狠地 打了他一巴掌。(彼女は力強く彼をビンタし直した)

b. 她 **又** 狠狠地 打了他一巴掌。(彼女は力強く再び彼をビンタした)

(22) a. *你把這一段 **重再唸** 一次。(この段落を再び読み直して)

b. 你把這一段 **再重唸** 一次。

(23) a. *她把這篇課文 **重又抄** 了一次。 (彼女はこの文を再び写し直した)

b. 她把這篇課文 **又重抄** 了一次。

3.2 統語的側面①：受動化の可否

(24) a. 這段歷史 **被重寫** 了好幾次。 (この歴史は何度も書き直された)

b. *這段歷史 **被又寫** 了好幾次。

(25) a. 丹麥草案 **被重提** 了好幾次。 (デンマーク草案が提出し直された)

b. *丹麥草案 **被又提** 了好幾次。

副詞「又」、「再」と異なり、「重V」は後項動詞が一まとまりをなしており、単一の動詞として受動化の統語操作を受けると考えられる。後項動詞のみが受動化の統語的操作を受けることが容認されない。

(26) a. 手機 **又** 被偷了。 (携帯電話はまた盗まれた)

b. *手機 **重** 被偷了。 (携帯電話は盗まれ直した)

(27) a. 他 **又** 被罵了。 (彼はまた怒られた)

b. *他 **重** 被罵了。 (彼は怒られ直した)

(28) a. **再** 被狐狸騙一次¹。 (再び狐に騙された)

b. ***重** 被狐狸騙一次。 (狐に騙され直された)

(29) a. **再** 被愛包围²。 (再び愛に囲まれた)

b. ***重** 被愛包围。 (愛に囲まれ直された)

3.3 統語的側面②：把(BA)との共起

(30) a. 我把這首曲子 {**重練/又練**} 了好幾次。 (私はこの曲を何度も{練習し直した/また弾いた})

b. 我 **又** 把這首曲子練了好幾次。

c. *我 **重** 把這首曲子練了好幾次。

(31) a. 你 把這篇課文 {**重唸/再唸**} 一遍。 (あなたはこの文を{読み直して/また読んで})

b. 你 **再** 把這篇課文唸一遍。

c. *你 **重** 把這篇課文唸一遍。

(32) a. 你 把課文 {**重抄/再抄**} 五遍。 (あなたはテキストを五回{写しなおして/また写して})

b. 你 **再** 把課文抄五遍。

c. *你 **重** 把課文抄五遍。

3.4 共起可能な品詞

副詞「又」は動詞のほか、形容詞との共起も可能であるが、「重」は形容詞と共起することができない³。

¹ 書名である。

² 曲のタイトルである。

³ 「重」と形容詞との結合について、「破鏡重圓」と「重新」があるが、いずれも語彙化程度が高いため、ここでの対

(33)a. 天 又黑 了。(空はまた黒くなった)

b. *天 重黑 了。

(34)a. 葉子 又黄 了。(葉はまた黄色くなった)

b. *葉子 重黄 了。

3.5 まとめ

いずれも共起する動詞が表わす動作の繰り返しを表わすが、「重」は副詞「再」、「又」と異なる性質を持つ。「再」、「又」と異なり、本発表は「重」を語彙レベルで後項動詞と結合する複合動詞と主張する⁴。

4. 「重 V」の意味的条件

「重 V」の後項動詞に選択されうるには、“反復可能性”、“不可逆性”と“意図性”、三つの意味的条件を満たさなければならない。

(35)a. *重愛 我一次。(もう一度私を愛し直して)

b. *他昨晚沒有睡好, 現在要 重睡 一下。(昨夜あまり熟睡できなかったので、今から寝なおす)

c. *犯人 重殺 了兩個人質。(犯人は二人の人質を殺し直した)

d. *老太太今天 重摔 了一跤。(おばあちゃんは今日転び直した)

4.1 反復可能性

結果状態が含意される動詞は、反復可能性を持つ動詞の典型と思われる。結果事象が含意される動詞は、いずれも「重 V」の後項動詞に選択されうる。

(36)a. 圖書館員把這本書 重放 到架上。(図書館のスタッフはこの本を本棚に置き直した)

b. 我把那塊牛排 重煎 了一次。(私はあのステーキを焼き直した)

c. 他 重寫 了一篇作文。(彼は作文を書き直した)

結果事象が含意されない均質的な事象でも、有界性が与えられれば、「重 V」と結合することが可能である。

(37)a. 我 重讀 了這本小說。(私はこの小説を読み直した)

b. 我 重看 了這部電影。(私はこの映画を見直した)

c. 我 重彈 了這首曲子。(私はこの曲を弾き直した)

(38)a. ??他 重揮 了這根棒子。(彼はこの棒を振り直した)

b. 他 把這根棒子 重揮 了一次。(彼はこの棒をもう一度振り直した)

有界性が想定しにくい活動動詞や状態動詞は、「重 V」と結合することが許されない。

(39)a. *他昨晚沒有睡好, 現在要 重睡 一下。(昨夜あまり熟睡できなかったので、今から寝なおす)

象から外すことにする。

⁴ 「重 V」は複合動詞であるという考えは本発表が最初ではない。張(2003)は偏正式複合動詞の例として、「重写」も挙げている。

- b. ***重愛** 我一次。 (もう一度私を愛し直して)

4.2 不可逆性

反復可能性に関してもう一つ重要なのは「不可逆性」である。反復された行為においてその対象が同一物でなければならない。

- (40) a. *犯人 **重殺** 了兩個人質。 (犯人は二人の人質を殺し直した)
b. 犯人 **又殺** 了兩個人質。 (犯人は再び二人の人質を殺した)
- (41) a. *他昨天燒了前女友的照片, 今天 **重燒** 了她送的卡片。
(彼は昨日元カノの写真を燃やした。今日は彼女からもらったカードを燃やし直した)
b. 他昨天燒了前女友的照片, 今天 **又燒** 了她送的卡片。
(彼は昨日元カノの写真を燃やした。今日は彼女からもらったカードを再び燃やした)
- (42) a. *我 **重吃** 了一個麵包。 (私はパンを食べ直した)
b. *她 **重喝** 了一杯酒。 (彼女はワインを飲み直した)

4.3 意図性

「重V」は、基本的に結合する動詞が表す事象は意図的行為であることが要求される。

- (43) a. *老太太今天 **重摔** 了一跤。 (おばあちゃん今日は転び直した)
b. *他 **重中** 了一個大獎。 (彼は賞品を当たり直した)
c. *她 **重嚇** 了一大跳。 (彼女は驚き直した)

5. 「重V」の概念構造

3節で示した、「重V」は間にほかの要素を挿入できないこと、また受動化できることなどから、「重V」を語彙レベルで形成する語彙的複合動詞と捉えたほうが妥当だと思われる。また、「重回」、「重返」はre-と同様に結果状態のみが反復される意味解釈がある。「重」と結合することによって、後項動詞のLCSが変更され、「重V」は語彙レベルにおける複合だと考えられる。

- (44) a. **重返** 戰場。 (戦場に再び戻った)
b. 回家不到三個月, 他就又 **重返** 戰場了。 (家に帰って三カ月もないのに、彼は前線に帰った)

一方、「重」は副詞「再」、「又」に同様に、結合する後項動詞の下位範疇化素性をそのまま受け継ぐ。「重」は結合する後項動詞が表わす事象を補文にし、補助動詞のような働きをされると考えられる。この点において、「重V」は統語構造で形成する複合動詞「V直す」に近い性質を示す。

- (45) a. 我 把這盒巧克力 放 到他桌上。 (私はこのチョコを彼のデスクに置いた)
b. 我 把這盒巧克力 **重放** 到他桌上。 (私はこのチョコを彼のデスクに置き直した)
c. *我 放 了這盒巧克力。 (私はこのチョコを置いた)
d. *我 **重放** 了這盒巧克力。 (私はこのチョコを置き直した)
- (46) a. 她 寫 了這部小說。 (彼女はこの小説を書いた)

- b. 她 **重寫** 了這部小說。 (彼女はこの小説を書き直した)
 c. *她把這部小說 寫 成電影劇本。 (彼女はこの小説を映画のシナリオに書いた)
 d. *她把這部小說 **重寫** 成電影劇本。 (彼女はこの小説を映画のシナリオに書き直した)

本発表は「重 V」の概念構造に二つの合成パターンを提案し、「重 V」の作用域は後項動詞のアスペクト素性によって異なると主張する。5 節では、AGAIN の作用域を意味構造レベルで示すとともに、本発表が提案する LCS が結合可能な動詞の範囲を正しく予測できるかどうかを考察する。

「重 V」の LCS①：結果状態の反復

x CAUSE [y BECOME AGAIN [[y BE [AT z]]]]

- (47) a. **重回** 前線。 (再び戦場の前線に帰る)
 b. 他把這本書 **重放** 到架上。 (彼はこの本を本棚に置き直した)
 c. 我把這面牆 **重漆** 了一次。 (私はこの壁を塗り直した)

「重 V」の LCS②：V1 が表わす事象全体の反復

[x CONTROL [AGAIN [LCS1]]]

- (48) a. **重走** 絲綢之路。 (シルクロードを歩き直す)
 b. 他 **重彈** 了這首曲子。 (彼はこの曲を弾き直した)
 c. 他 **重編** 了貝多芬的交響樂。 (彼はベートーベンの交響曲を編集し直した)

5.1 概念構造 LCS①

LCS① x CAUSE [y BECOME AGAIN [[y BE [AT z]]]]

- A. 共起する動詞：LCS において BECOME の主語がある動詞
 B. 作用域： BECOME の第一項が義務的に AGAIN の作用域に入る
 C. 項実現：結果状態を表わす変項(AT-z)は必ず項実現する

5.1.1 存在出現動詞

出現を表わす「現」、「生」は結果状態が含意し、「重 V」の後項動詞に選択されうる。結果状態の部分のみが AGAIN の作用域に入る。“台湾バットが亀山島にいる”、“人間である”という結果状態が反復され、義務的に AGAIN の作用域に入ることである。

- (49) a. 台灣狐蝠 **重現** 龜山島。 (台湾バットは再び亀山島に現れた)
 b. [BECOME AGAIN [[TAIWAN BAT] BE [AT [PLACE]]]]
 (50) a. 聖靈 **重生**。 (聖なるイエスが再び生まれた)
 b. [BECOME AGAIN [[JESUS] BE [AT [HUMAN]]]]
 (51) a. 如果你下輩子 **重生** 為人, 你想做什麼。 (再び人間に生まれ変わったら、何をしたいのか)
 b. *如果你下輩子 **重生** 為狗, 你想做什麼。 (再び犬に生まれ変わったら、何をしたいのか)

5.1.2 位置変化動詞

位置変化動詞は結果状態を含むので、「重」と結合することが容認される。自動詞も他動詞も「重V」の後項動詞に選択されうる。位置変化動詞の結果状態が義務的に AGAIN の作用域に入る。

- (52) a. **重返** 前線。(再び戦場に戻る)
b. **重出** 江湖。(再びこの世界に出る)
c. **重回** 家郷。(再び故郷に帰る)
- (53) a. 他把這些書 **重擺** 到架上。(彼はこれらの本を本棚に置き直した)
b. 我把這份文件 **重放** 到她桌上。(私はこの書類を彼女のデスクに置き直した)
- (54) a. 重回 家郷。(再び故郷に帰る)
b. [x] CAUSE [x BECOME **AGAIN** [[x] BE [AT [HOME]]]]
- (55) a. 他把這些書 **重擺** 到架上。(彼はこれらの本を本棚に置き直した)
b. [x] CAUSE [y BECOME **AGAIN** [[y] BE [AT [SHELF]]]]

しかし、ここで注意されたいのは、「重+位置変化動詞」において、着点は必ず項実現しなければならない。着点が項実現しなければ、いかなる文脈を与えても「重」との結合が容認されない。

- (56) a. 我把這盒巧克力 **重放** 到他桌上。(私はこのチョコを彼のデスクに置き直した)
b. ??我剛剛把那個小盒的巧克力放在他桌上, 發現放錯了, 我在他桌上 **重放** 了這個大盒的巧克力。
(彼のデスクで私は誤って小さいチョコを置いたが、大きいチョコを置き直した)

また、位置変化を表わす動詞でも、LCS に結果状態を表わす着点、場所関数 AT がなければ、「重」との結合が容認されない。「去」は動作主の移動に焦点があたっており、文脈さえ整えば、着点に到着したという含意が打ち消すことが可能である。「去」は LCS において、AT 関数は必ずしも含意されないと考えられる。「去」は「重」と結合できないのはこのことによると考えられる。「去」と「到」を比較すると、この違いがより明確にできる。

- (57) a. 去 美国。(アメリカに行く)
b. ***重去** 美国。(アメリカに再び行くことにする)
- (58) a. 他在一個鐘頭前已經出門 去 阿姨家了, 到現在還沒有 到。
(彼は一時間前におばさんのうちに行ったのに、まだ着いていない)
- (59) a. **重到** 桃花塢。(桃花塢に行き直す)
b. [x] CAUSE [x BECOME **AGAIN** [[x] BE [AT [PLACE]]]]
c. ***重去** 美国。(アメリカに再び行くことにする)
d. *[x] CAUSE [x BECOME **AGAIN** [[x] BE [TO [AMERICA]]]]

5.1.3 状態変化動詞

状態変化動詞は結果状態を含むので、「重」と結合することが容認される。動作主は AGAIN の作用域に入らないので、必ずしも反復する必要がない。また、「重+状態変化動詞」の場合は、必ず先行事象の反復が含意される。なぜなら、状態変化動詞において、結果状態は定項に満たされ、“温めてあった状態”や“染めてあった状

態”が義務的に AGAIN の作用域に入らなければならない。

(60) a. 我把湯 **重熱** 一次。(私はこのスープを温め直した)

b. 媽媽煮的湯涼了, 我把它 **重熱** 一次。

(母が温めたスープは冷めてしまったので、私はこのスープを温め直した)

c. [x] CAUSE [y BECOME **AGAIN** [[y] BE [AT [WARM]]]]

(61) a. 老師把那塊布 **重染** 了一次。(先生はあの布を染め直した)

b. 我把顏色染得很不均勻, 老師把我剛才染的那塊布 **重染** 了一次。

(私はうまく色を染められなかったので、私が染めていたあの布を、先生は染め直した)

c. [x] CAUSE [y BECOME **AGAIN** [[y] BE [AT [DYED]]]]

(62) a. *我把媽媽作的涼湯 **重熱** 了一次。(私は母が作った冷たいスープを温め直した)

b. *我把這面咖啡色的土牆 **重漆** 一次。(私はこの茶色の泥壁を塗り直した)

5.2 概念構造 LCS②

LCS② [x CONTROL [**AGAIN** [LCS1]]]

A. 共起する動詞：LCS において、BECOME の主語がない動詞

B. 作用域：対象 (THEME) が優先的に AGAIN の作用域に入る

C. 項実現：対象 (THEME) が必ず項実現する

5.2.1 活動動詞

活動動詞において、反復可能性を持つものであれば、「重」と結合することが可能である。動作主と働きかけをうける対象ともに、AGAIN の作用域に入るのが一般的であるが、主語を変えた場合は、文脈さえ整えば容認することが可能である。概念構造上では、対象のみが AGAIN の作用域に入る。動作主は AGAIN の作用域に入る保証がない。

(63) a. 他 **重彈** 了這首曲子。(彼はこの曲を弾き直した)

b. 他把小華剛才彈的曲子 **重彈** 了一次。(彼はさき小華が弾いた曲を弾き直した)

LCS②において、「重 V」は修正するために、後項動詞が表わす事象を反復するという含意があるように思われるが、この含意はあくまでも語用論的なもので、「修正」の意味解釈は「重 V」の意味概念に必ずしも含意するわけではない。LCS②において「重 V」は動作の反復を中核的な意味とし、修正の意味はあくまでも語用論的に含意されることであって、中核的な意味ではないと考えられる。

(64) a. **重演** 上一代的悲劇。(前の世代の悲劇を繰り返した)

b. **重說** 潘金蓮。(再び潘金蓮という人の話を語る)

c. **重蹈** 覆轍。(前の失敗を踏み直した/繰り返した)

5.2.2 移動様態動詞

移動様態動詞において、delimiter event と解釈される要素を想定できれば、「重」との結合が容認される。

(65) a. 剛才的成績不好, 他要 **重游**。(さきの成績が良くなかったので、彼は泳ぎ直す)

b. 選手們 **重跑** 了一次。 (選手たちはもう一度走り直した)

(66) a. **重走** 絲綢之路。 (シルクロードを歩き直す)

b. **重跑** 長征路。 (長征ロードを走り直す)

(67) a. ??他 **重游** 了蝶式。 (彼はバタフライで泳ぎ直した)

b. 他用蝶式 **重游** 了一次。 (彼はバタフライでもう一度泳ぎ直した)

(68) a. *他 **重滑** 了這塊滑板。 (彼はこのスキーボードで滑り直した)

b. 他用這塊滑板 **重滑** 了一次。 (彼はこのスキーボードでもう一度滑り直した)

「重+移動様態動詞」は事象全体が反復される。目的語が優先的に AGAIN の作用域に入るが、主語は必ず AGAIN の作用域に入るとは限らない。

(69) a. 警察為了調查真相, 把他剛才走的路線 **重走** 了一次。

(警察は真相を調べるため、彼が歩いたルートを歩き直した)

b. 他中途抽筋不能跑了。裁判決定由候補選手 **重跑**。

(彼は走る途中でつってしまって、走れなくなった。補欠選手が走り直すと審判が決めた)

5.2.3 作成動詞

作成動詞は反復可能性を持ち、「重」と結合することが可能である。「重+作成動詞」の場合も THEME が義務的に AGAIN の作用域に入る。しかし、作成を繰り返すことによって、目的語の性質が変わり、異なる指示対象を持つことになる。

(70) a. 她 **重寫** 了瓊瑤之前的一篇作品。 (彼女は瓊瑤の以前の作品を書き直した)

b. 他 **重編** 了貝多芬的交響樂。 (彼はベートーベンの交響曲を編集し直した)

(71) a. 之前那張設計圖 他不滿意, 他 **重畫** 了一張。

(以前、書いたあの設計図を気に入らなかったの、彼はもう一枚を書き直した)

b. 他的作業寫得太潦草, 老師讓他 **重寫** 一次。

(彼の宿題は汚かったの、先生は彼に{書き直させる/再び書かせる})

「V 直す」にも同じ意味解釈が見られる。由本(2005b:120-122)では、AGAIN の作用をうける作成動詞の対象としては、THING TYPE が選択されると分析している。すなわち、作成を繰り返すことによって、二枚目の対象を作成することが表わされる。この分析は「重+作成動詞」にも適用すると考えられる。

(72) a. セーターを**編み直す**、浴衣を**縫い直す**、証明書写真を**写し直す**

b. [x CONTROL AGAIN [x CAUSE [BECOME [THING TYPE]BE]]]

(73) a. 助理寫的那篇演講稿很不通順, 社長自己 **重寫** 了一篇演講稿。

(助手が書いた演説原稿はよくなかったの、社長は自分で新しい原稿を書き直した)

b. 之前那張設計圖 他不滿意, 他 **重畫** 了一張。

(以前、書いたあの設計図を気に入らなかったの、彼はもう一枚を書き直した)

料理の仕方を表わす動詞、「煎(焼く)」、「炒(炒める)」、「煮(煮る)」などにも同じことが見られる。

(74) a. 我把魚煎壞了, 我 **重煎** 了一條魚。 (私はこの魚をキレイに焼かなかったの、もう一匹を焼き直した)

b. 媽媽炒的菜太鹹了,我 **重炒** 了一盤。(母が炒めた野菜は塩辛すぎて、私はもう一皿を炒め直した)

5.3 壁塗り動詞

壁塗り動詞は「重」と結合する場合、二通りの意味解釈がある。

(75) a. 我把這張海報 **重貼** 到圍牆上。(私はこのポスターをフェンスに貼り直した)

b. 那張海報破了,我在圍牆上 **重貼** 了一張新的海報。

(あのポスターが破れていたから、私はフェンスに新しいポスターを貼り直した)

(76) a. 我把這幅匾額 **重掛** 到客廳。(私はこの掛け軸をリビングルームに掛け直した)

b. 他 **重掛** 了一張新的招牌。(彼は新しい看板を掛け直した)

場所移動を表わす場合

(77) a. 我把這張結婚照 **重掛** 到房間。(私はこの結婚写真を寝室に掛け直した)

b. ??這張結婚照本來掛在客廳,我把它 **重掛** 到房間。

(この結婚写真はリビングルームに貼ってあったが、私はこれを寝室に貼り直した)

(78) a. 他把這張海報 **重貼** 到車廂裡。(彼はこのポスターを車両の中に貼り直した)

b. ??這張海報本來貼在車站的公佈欄,他把這張海報 **重貼** 到車廂裡。

(このポスターはホームの掲示板に貼ってあったが、彼はこれを車両の中に貼り直した)

対象の変更を表わす場合

(79) a. 國民黨 **重掛** 李登輝的照片。(国民党は李登輝の写真を掛け直した)

b. 那張海報破了,我在圍牆上 **重貼** 了一張新的海報。

(あのポスターが破れていたから、私はフェンスに新しいポスターを貼り直した)

6. まとめ

主要参考文献

張麗麗(2003)「動詞複合與象似性」『語言暨語言學第四卷第一期』中央研究院語言學研究所籌備處 pp. 1-27.

影山太郎(1996)『動詞意味論—言語と認知の接点—』くろしお出版.

岸本秀樹(2001)「壁塗り構文」影山太郎(編)『日英対照：動詞の意味と構文』pp. 100-126. 大修館書店

王蓓淳(2009)「複合動詞『改V』的詞匯概念結構與論元結構」第17回國際中國語言學會予稿集.

王蓓淳・由本陽子(2009)「中国語複合動詞「改V」の形成と意味—日本語の「V+かえる」「V+直す」との比較を参考に—」日本言語学会第139回大会予稿集. 240-245.

由本陽子(1997)「複合動詞を作る『～直す』の意味と構造—英語の接頭辞 re との相違を参考に—」『言語と文化の対話』177-191. 英宝社.

由本陽子(2005a)『複合動詞・派生動詞の意味と統語 モジュール形態論から見た日英語の動詞形成』ひつじ書房.

由本陽子(2005b)「「V+かえる」と「V+直す」の意味と統語」『日本語文法』5巻2号. 110-127.